

資料5

(交通部会用資料3)

# 東北地方における交通の現況

平成16年5月

国土交通省東北運輸局

# 目 次

<b>1 . 東北地方の面積・人口・地形</b> . . . . .	1
1 - 1 面積及び人口（全国比） . . . . .	2
1 - 2 東北地方の地形・気候 . . . . .	3
1 - 3 県別面積（総面積、可住地面積、人口集中地区面積） . . . . .	4
1 - 4 - 1 県別人口 . . . . .	5
1 - 4 - 2 人口10万人以上の都市 . . . . .	5
1 - 4 - 3 人口推移 . . . . .	6
1 - 4 - 4 年齢別人口割合及び推移 . . . . .	7
1 - 4 - 5 高齢化率の将来推計 . . . . .	8
1 - 4 - 6 産業別就業者割合及び推移 . . . . .	9
1 - 5 一人当りの県民所得 . . . . .	10
1 - 6 自家用車数の推移 . . . . .	11
<b>2 旅客輸送の動向</b> . . . . .	12
2 - 1 - 1 旅客輸送機関別分担率 . . . . .	14
2 - 1 - 2 輸送機関別旅客輸送人員の推移 . . . . .	15
2 - 1 - 3 旅客流動 . . . . .	16
2 - 1 - 4 高速交通体系の整備による都市間旅行時間の短縮効果 . . . . .	18
2 - 2 - 1 鉄道旅客輸送人員の推移（全体、東北新幹線、地下鉄、民鉄） . . . . .	19
2 - 2 - 2 東北地方の鉄道路線図 . . . . .	21
2 - 3 - 1 バス輸送人員の推移（乗合バス、高速バス） . . . . .	22
2 - 3 - 2 乗合バス路線廃止（不採算）状況 . . . . .	24
2 - 3 - 3 高速バスの運行系統 . . . . .	25
2 - 3 - 4 高規格幹線道路網図 . . . . .	27
2 - 4 - 1 空港利用者数の推移 . . . . .	28
2 - 4 - 2 日本人出国者の利用空港内訳 . . . . .	31
2 - 4 - 3 航空路線網 . . . . .	32
2 - 4 - 4 東北地方の各空港の国際線就航状況 . . . . .	33
2 - 4 - 5 空港アクセスの概況 . . . . .	34
2 - 5 - 1 旅客船輸送人員の推移 . . . . .	36
2 - 5 - 2 フェリー航路の現況 . . . . .	37
2 - 5 - 3 離島航路の現況 . . . . .	38
2 - 6 ハイヤー・タクシー輸送人員の推移 . . . . .	39
<b>3 貨物輸送の動向</b> . . . . .	40
3 - 1 貨物輸送機関別分担率 . . . . .	41
3 - 2 - 1 東北発着輸送量の推移 . . . . .	41

3 - 2 - 2	地域間における貨物流動状況	4 2
3 - 2 - 3	東北と全国の貨物流動状況	4 3
3 - 3	鉄道貨物輸送量の推移	4 4
3 - 4	貨物自動車輸送量の推移	4 5
3 - 5 - 1	港別港湾運送取扱貨物量の推移	4 5
3 - 5 - 2	主要港の貨物取扱量	4 6
3 - 5 - 3	自地域内の港湾におけるコンテナ貨物取扱量 (地域別)	4 7
3 - 5 - 4	利用港湾割合	4 8
3 - 6	モーダルシフトの利点	4 9
<b>4</b>	<b>環境・バリアフリー</b>	<b>5 0</b>
4 - 1 - 1	低公害車普及率の推移	5 1
4 - 1 - 2	県別低公害車普及率	5 1
4 - 2 - 1	乗合バスのバリアフリー化の現状	5 3
4 - 2 - 2	鉄道駅におけるバリアフリー化の現状	5 4
4 - 3	交通バリアフリー法に基づく基本構想の策定状況	5 5

## 1 東北地方の面積・人口・地形

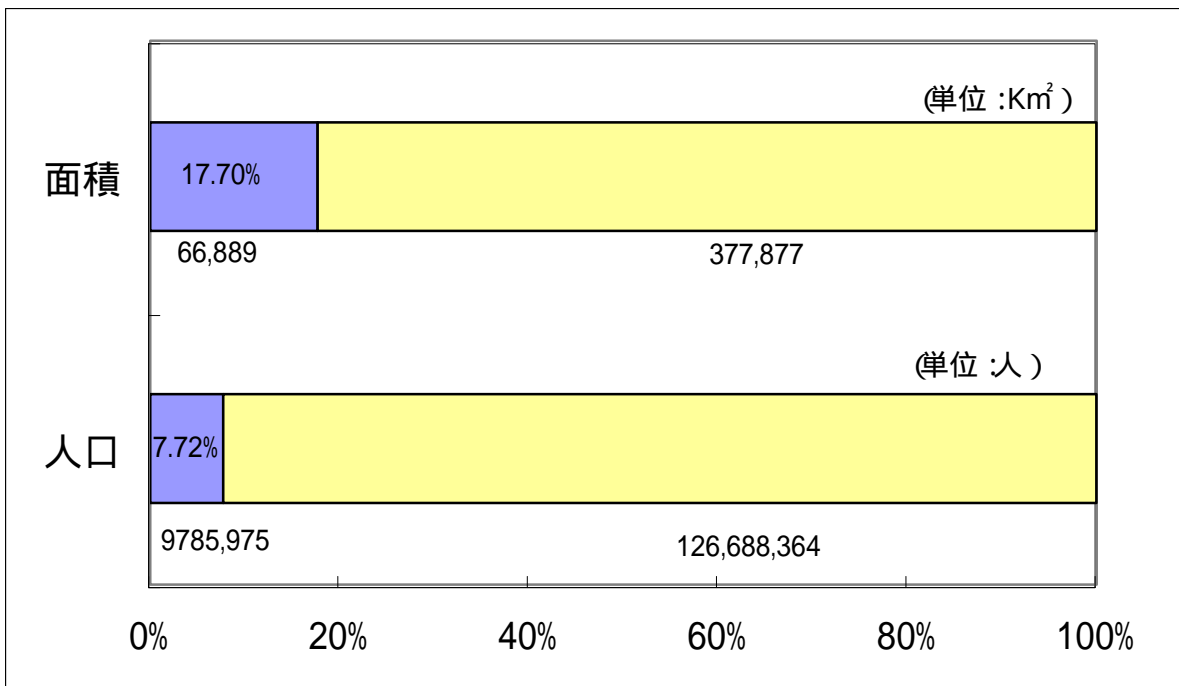
### 【概況】

- ・ 面積 66,889k m<sup>2</sup>は、全国の約 18%と広大。
- ・ 人口 9,786 千人は、全国の約 8%。人口密度 146 人/k m<sup>2</sup>は、全国平均の 5 割弱。
- ・ 山がちな地形。奥羽山脈などの山地に隔てられて、平野・盆地が点在。
- ・ 都市は、山地に隔てられた平野・盆地に分散して所在。
- ・ 本格的な人口減少、少子高齢化時代の到来。人口減少、少子高齢化は、全国を上回るペースで進展。
- ・ マイカーが普及（一人当たり 0.43 台。2、3 台持つ世帯も）

### 【基礎データ】

- 1 - 1 面積及び人口（全国比）
- 1 - 2 東北地方の地形・気候
- 1 - 3 県別面積（総面積、可住地面積、人口集中地区面積）
- 1 - 4 - 1 県別人口
- 1 - 4 - 2 人口 10 万人以上の都市
- 1 - 4 - 3 人口推移
- 1 - 4 - 4 年齢別人口割合及び推移
- 1 - 4 - 5 高齢化率の将来推計
- 1 - 4 - 6 産業別就業者割合及び推移
- 1 - 5 一人当りの県民所得
- 1 - 6 自家用車数の推移

## 1-1 面積及び人口 (全国比)



資料 : 全国都道府県市区町村別面積調、住民基本台帳人口要覧 (平成 15年 3月 31日現在)

## 1 - 2 東北の地形・気候

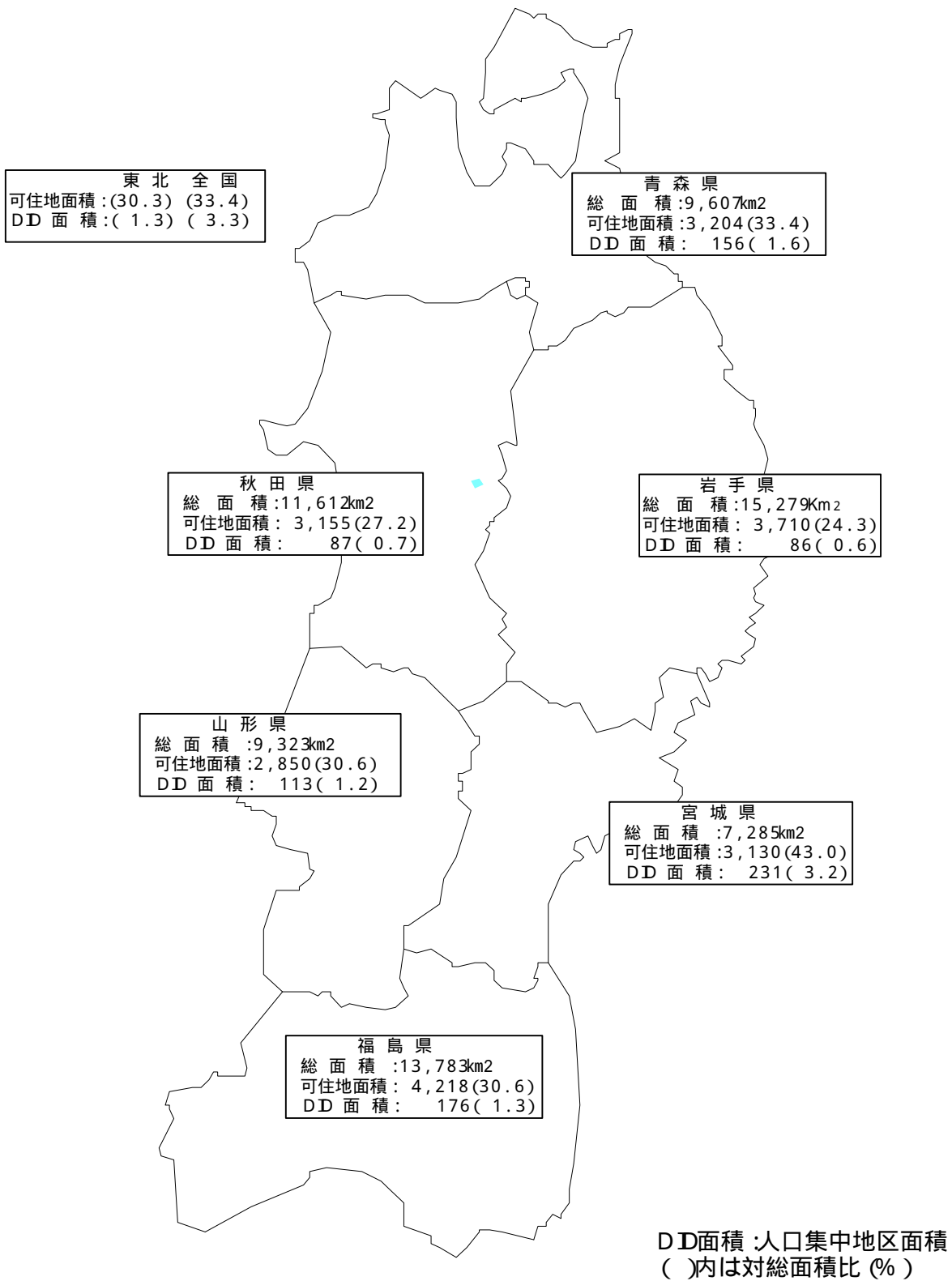
本州の最北端に位置する東北地方は6県から構成され、南北に縦に長く、中央を走る高く険しい奥羽山脈によって、青森県東部、岩手県、宮城県、福島県が面する太平洋側と青森県西部、秋田県、山形県が面する日本海側に分けられる。また、奥羽山脈に平行して東に北上高地・阿武隈高地、西に出羽山地が連なり、山地・山脈が多い地形となっている。それらの山地・山脈の間には、北上盆地、横手盆地、山形盆地、会津盆地などがあり、北上川流域には仙台平野、最上川流域には庄内平野、雄物川流域には秋田平野、岩木川流域には津軽平野が開けている。

全般的に東北地方の夏は比較的涼しいが冬は長く厳しい。しかし、高く険しい山脈が東北地方を東西に分けているため、太平洋側と日本海側では気候が大きく異なっている。夏、太平洋側では「やませ」の影響で気温があまり上がらず、比較的涼しくなる。一方、日本海側では盆地を中心に高温となることが多い。そして冬になると、太平洋側では晴天の日が続き降雪量も少ないが、日本海側では低温でくもりの日が多く大雪となる。

しかし、同じ日本海側でも盆地と平野を比べると、盆地では大雪となるが平野では降雪が少ない、などの違いが現れる。同じ日本海側と太平洋側の地域でも、盆地と平野では気候が異なってくるため、東北地方は様々な気候を持つ地方といえる。

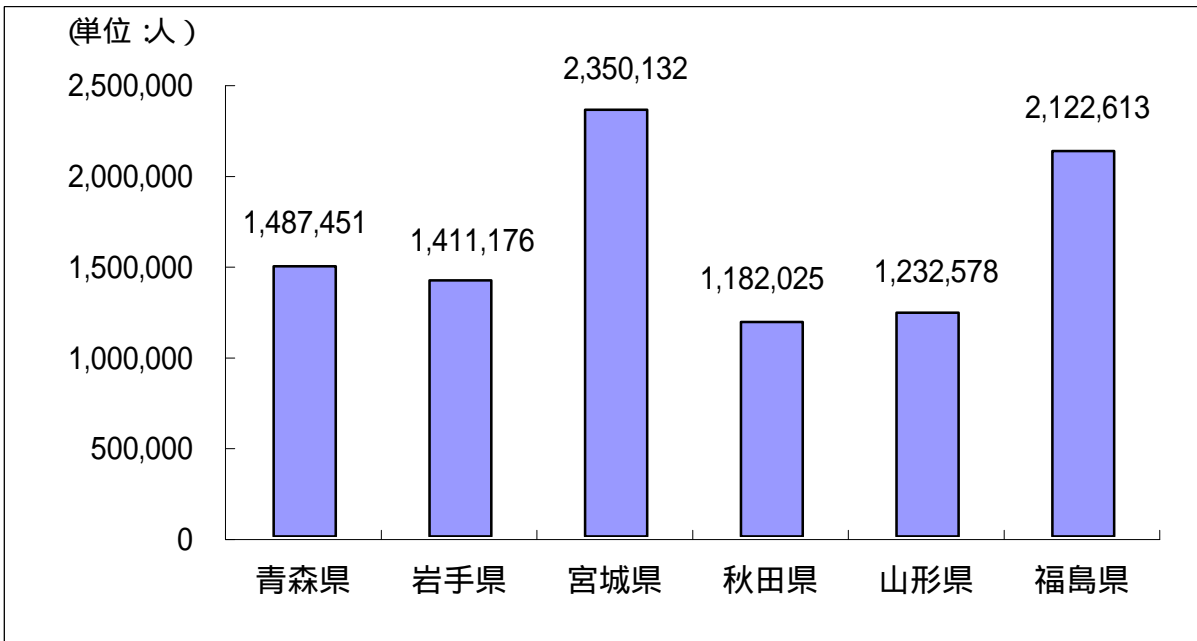


### 1-3 県別面積 (総面積、可住地面積、人口集中地区面積)



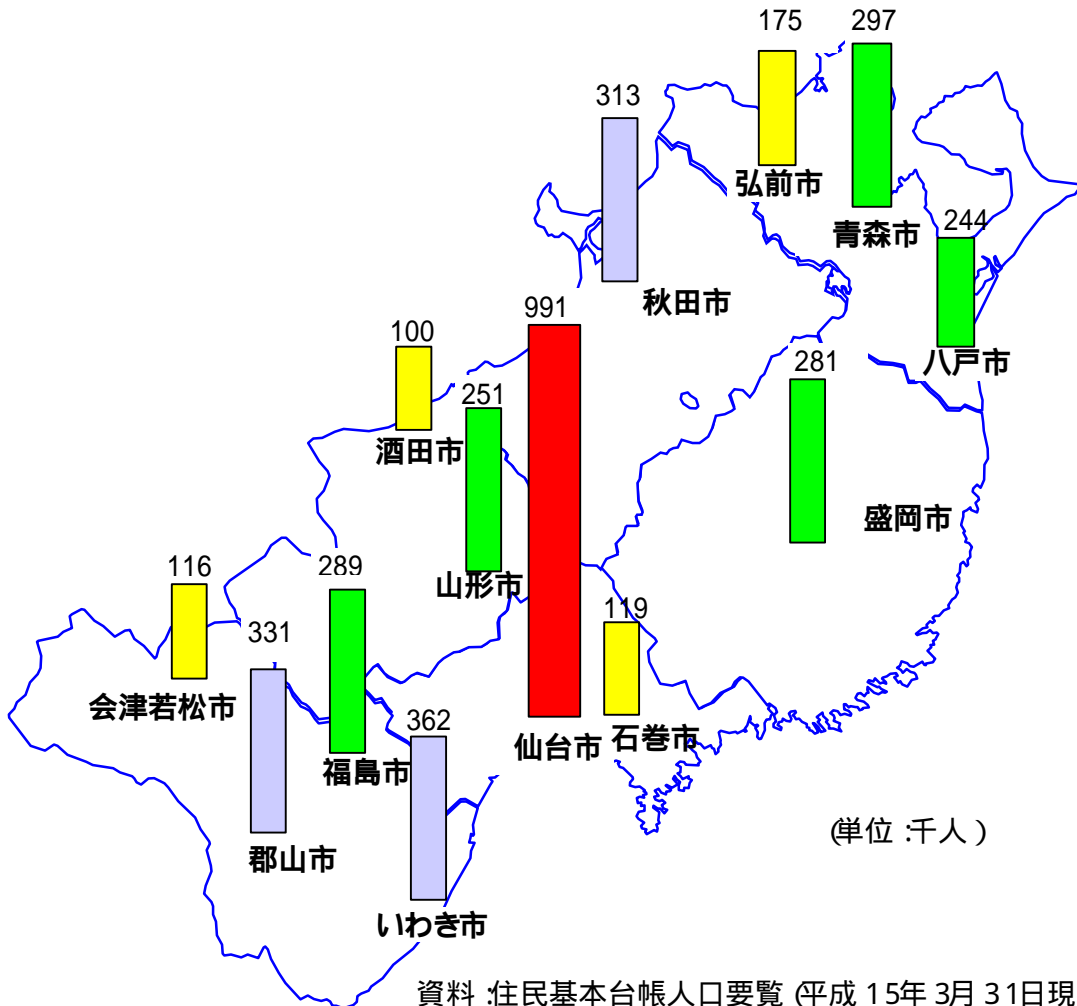
資料 :全国都道府県市区町村面積調 面積の単位 Km<sup>2</sup>

### 1-4-1 県別人口



資料 :住民基本台帳人口要覧 (平成 15年 3月 31日現在)

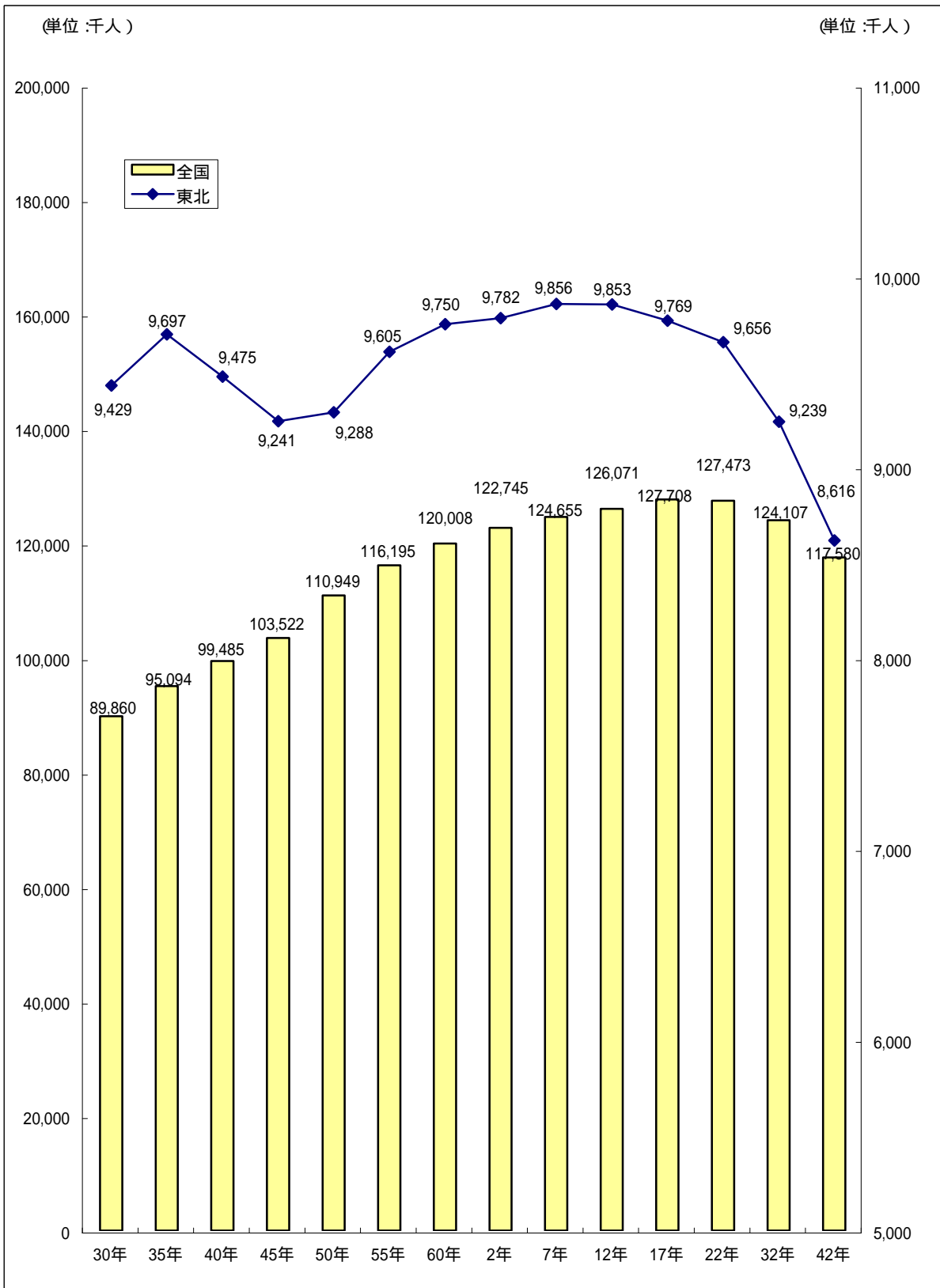
### 1-4-2 人口10万人以上の都市



資料 :住民基本台帳人口要覧 (平成 15年 3月 31日現在)

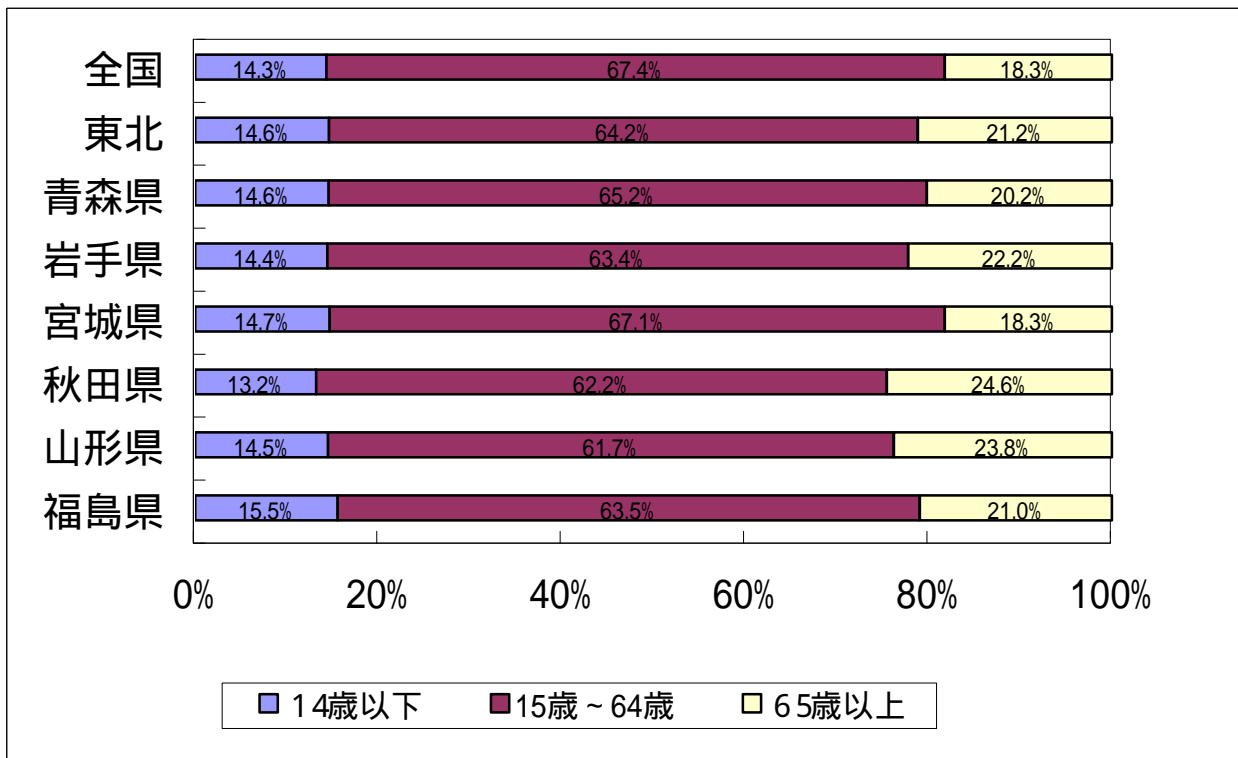


### 1-4-3 人口推移



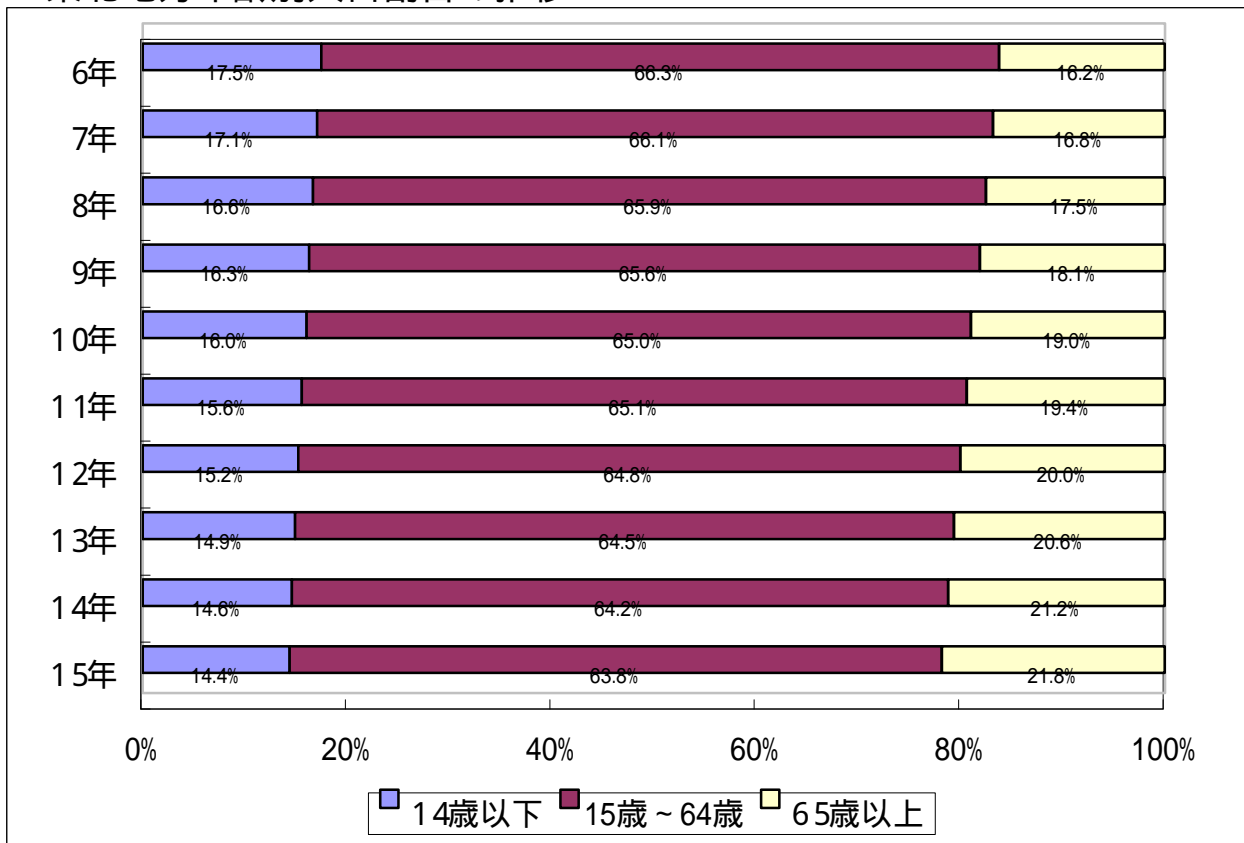
資料:住民基本台帳人口要覧  
将来推計人口(厚生省)

### 1-4-4 年齢別人口及び推移 県別年齢別人口割合 (平成15年)



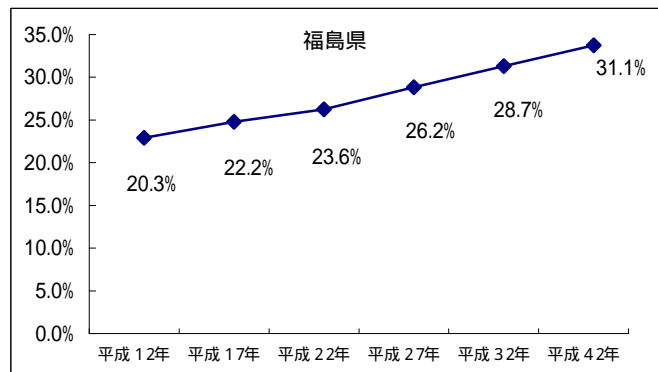
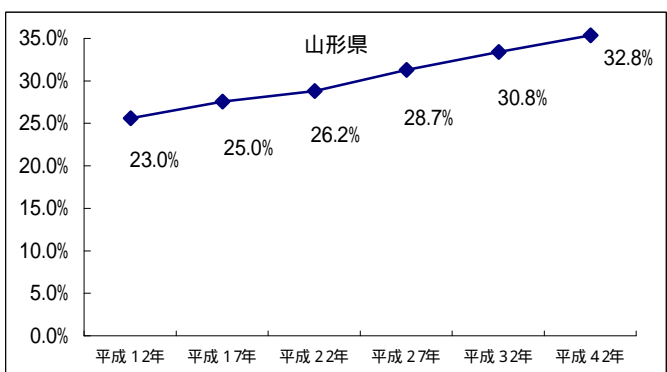
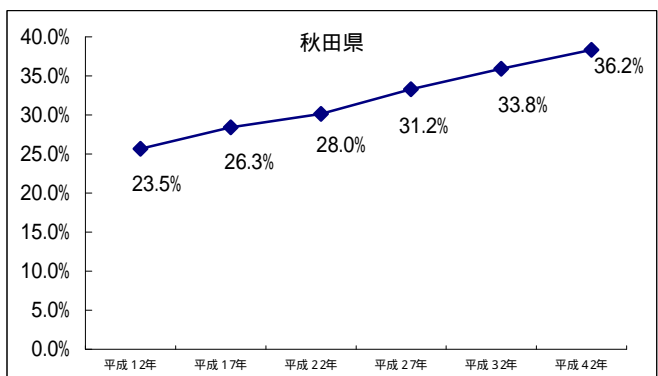
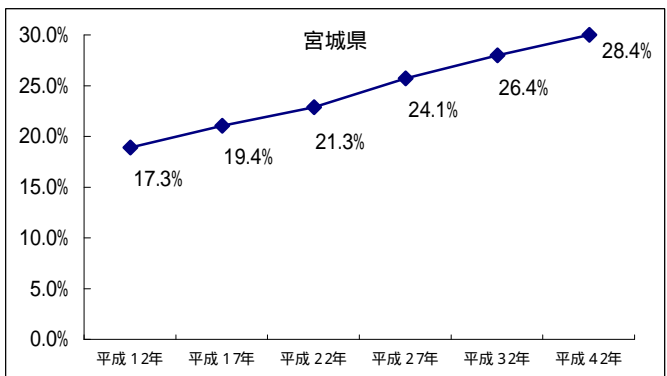
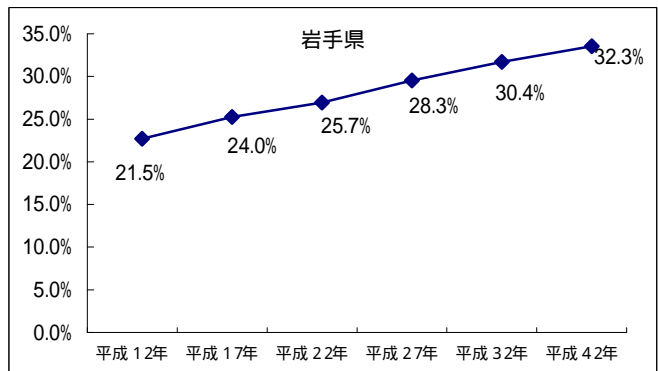
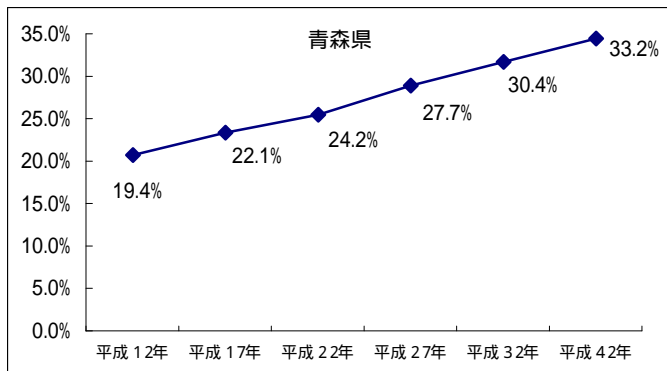
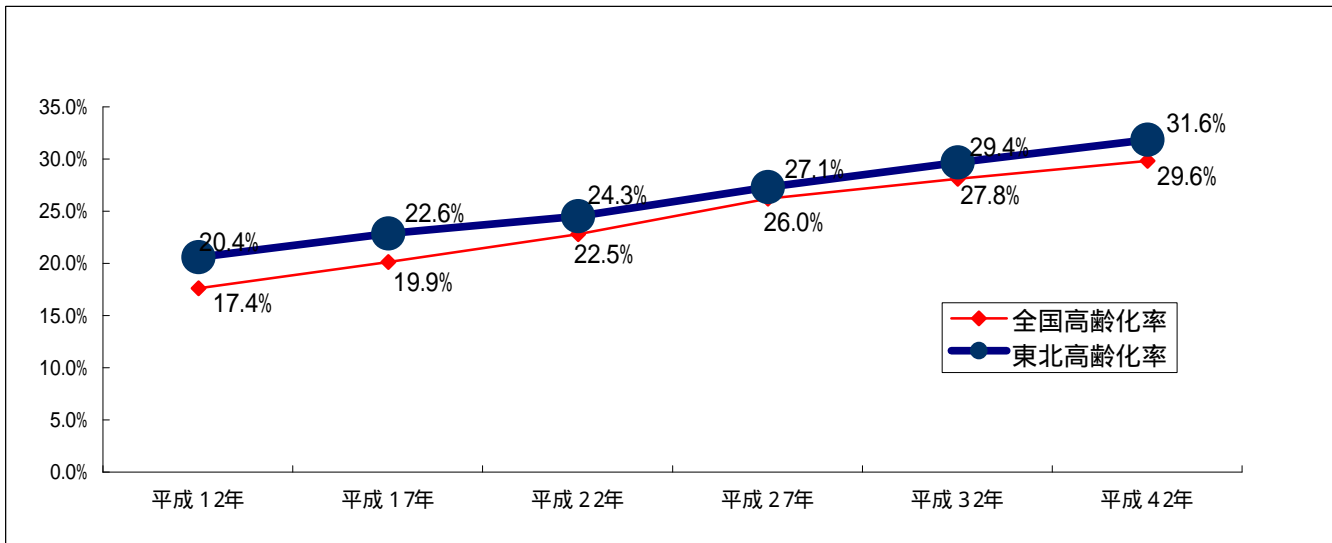
資料 : 住民基本台帳人口要覧 (平成15年3月31日現在)

### 東北地方年齢別人口割合の推移



資料 : 住民基本台帳人口要覧

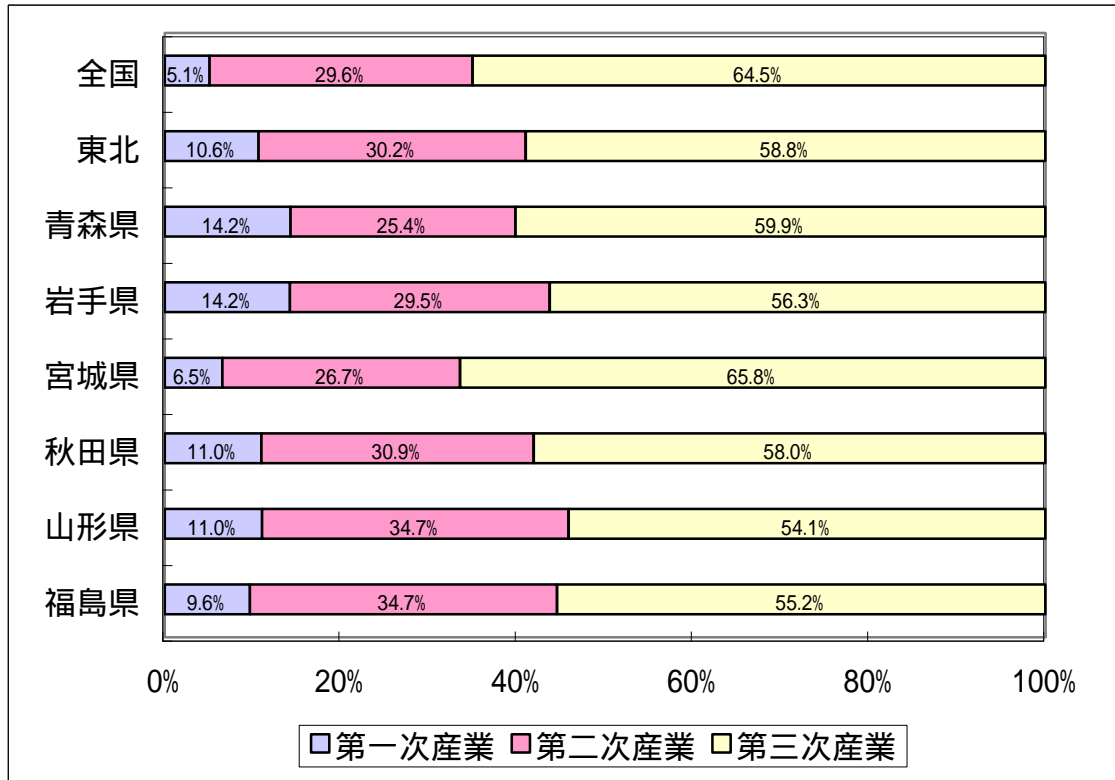
# 1-4-5 高齢化率の将来推計



資料 国立社会保障・人口問題研究所 (平成14年3月推計)

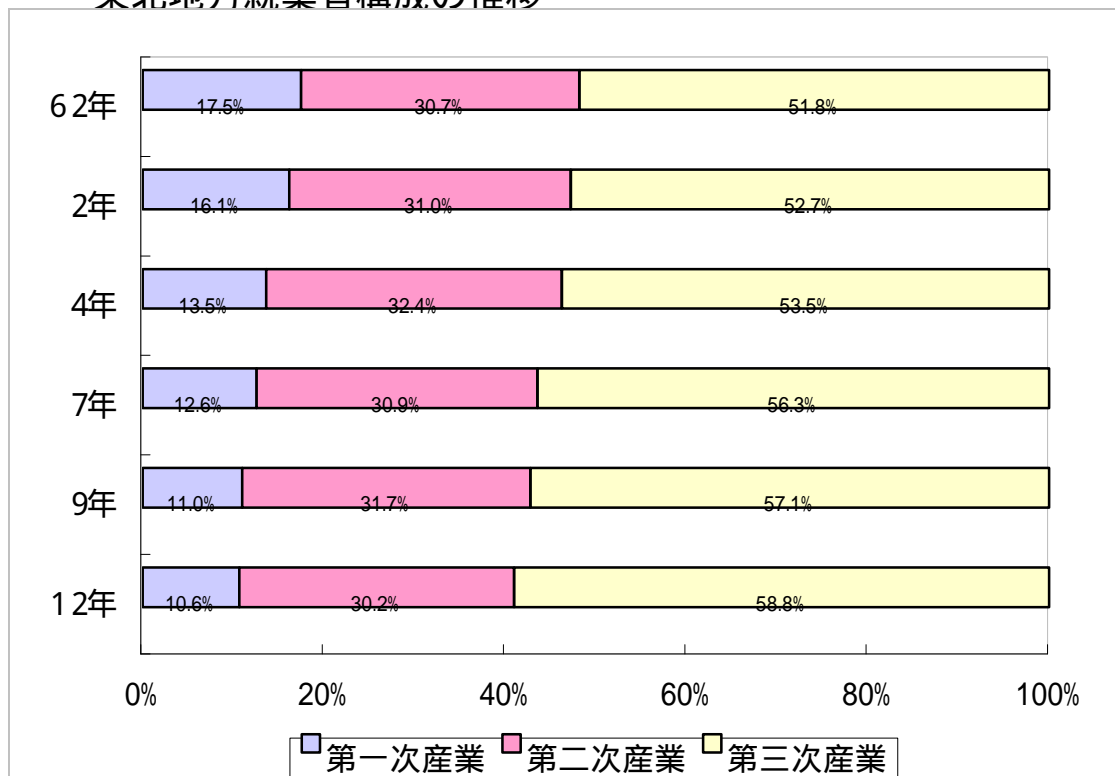
## 1-4-6 産業別就業者割合及び推移

県別就業者構成 (平成12年)



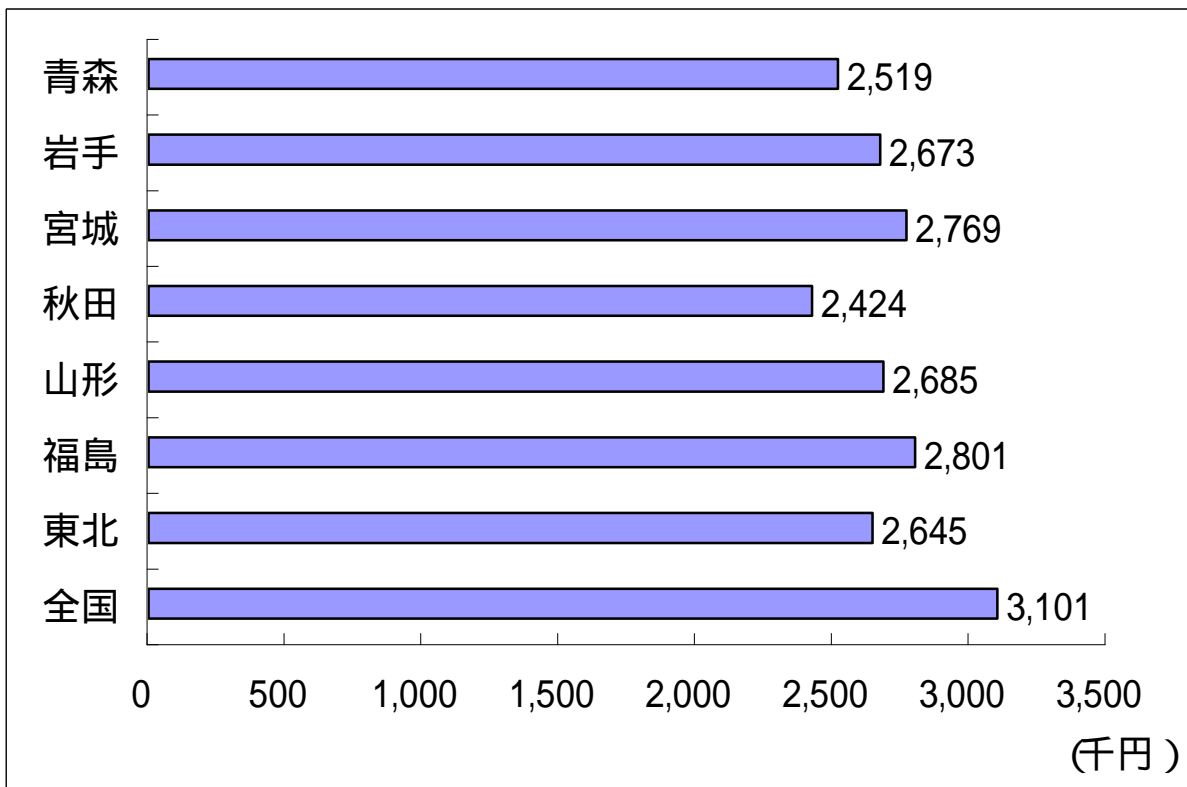
資料 国勢調査 (平成12年)

東北地方就業者構成の推移



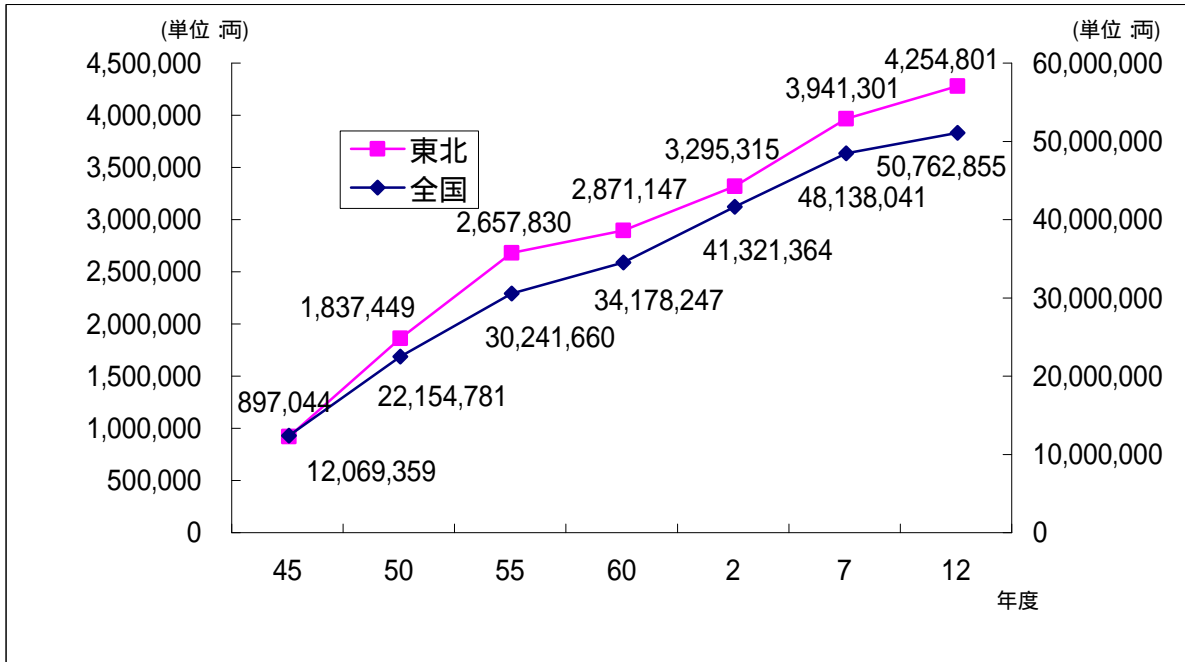
資料 国勢調査 (平成12年)

## 1-5 1人当たりの県民所得

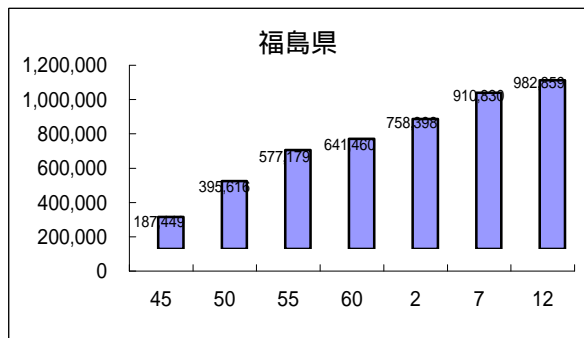
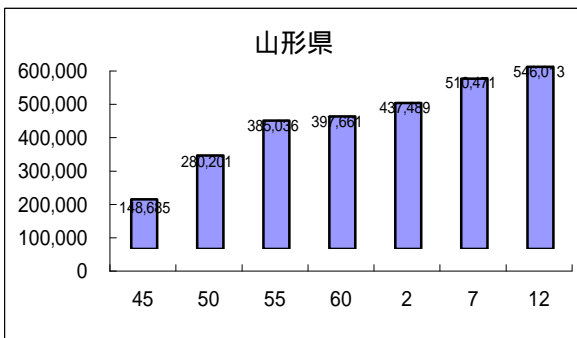
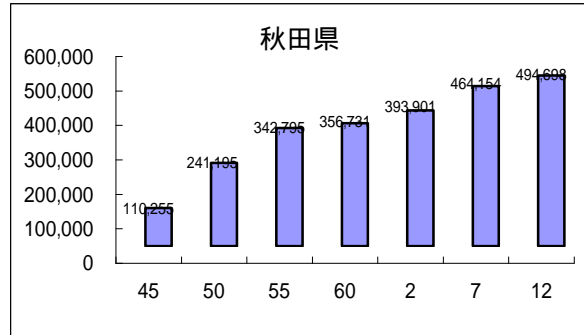
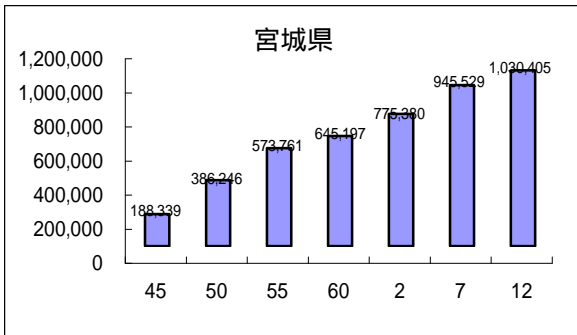
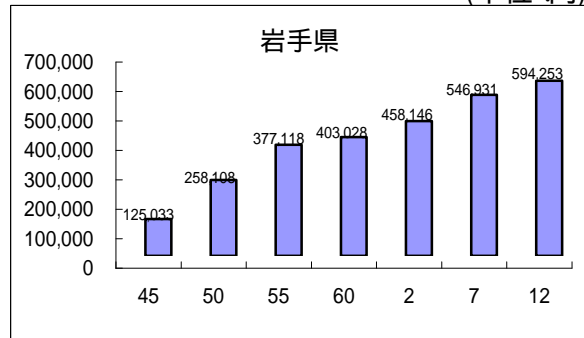
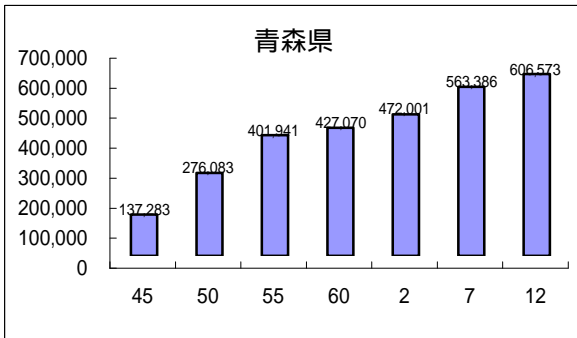


資料 県民経済計算年報 (平成 15年版)

# 1-6 自家用車数の推移



(単位: 両)



資料:自動車保有車両数